

らじみサラダボール子育て情報



「感情の豊かさ」
令和2年9月30日号
板橋富士見幼稚園



子どもの喜怒哀楽に付き合っ

幼児期の子どもたちは、日々言葉を環境から獲得し続けています。環境の変化による刺激で、言葉数が多くなり語彙が豊かになっていきます。

言葉は感情と一体です。子どもは語彙が少ないため、指差しから始まり、擬音（オノマトペ）や「あれ」「これ」といった言葉で表現していき、多くの場合は物の名詞を初段階で獲得してきます。大人や周囲の子供がその名詞を理解している中で、幼児は相手に伝えようと一所懸命となります。しかし、相手が同年齢や少し上の子だったりすると、互いの言葉や意図が理解できず、トラブルになり、大声で泣きじゃくる事がよくあります。逆に、すぐに伝わった時には、嬉しさから全身を使って喜びを表現します。泣いたり、喜んだり、天気雨のごとく感情が揺さぶられ、その度に、たくさんの言葉を獲得しています。

言葉を豊かに獲得させていくためには、我が子の語彙力を理解し、子どもがしっかりとした名詞を語られない場合は、そのものの名前を言いながら共感してあげることが大切です。



また、言葉の獲得は喜怒哀楽の激しさから生まれるものなので、泣きわめきながら欲求してくるときは、素早く子どもの気持ちを理解してあげるようにしましょう。また、会話が伝わり、喜びはしゃぎまわっているときには一緒に喜んであげるなど、一つ一つの出会いの時に、共感・共有・共鳴してあげることが大切です。

感情豊かな子どもを育てていくためには、前述した通り環境が必要です。特に環境の中で五感が得られる環境が必要となります。いつも同じ環境では、刺激がなくなり、好奇心や興味・関心などは生まれにくく、言葉も育ちにくくなってしまいます。

子供がときめく環境を大切に、暮らしの中に取り入れてみてください。